

# 支部2024団結学校

6月23日に総勢38名で2024年団結学校を、港湾労働者第1福祉センターで開催しました。



## 恩貴島運輸闘争

第1講義を関谷書記次長から、1973年にあった、恩貴島（おきじま）運輸闘争について語られました。私の分会の先輩からも、すごい闘争であったと聞いています。当時の大事な資料を関谷書記次長からお借りして拝見しました。当時、親会社の下請けであった恩貴島運輸の従業員約130名が未組織労働者のため低賃金で、休日もなく、正月から半年たって計算すると180日のうち出勤が1



78日から179日という今では考えられない劣悪な労働条件で働いていた。

1973年6月26日に約130名のうち、36名が全港湾沿岸南支部（現在の大阪支部）此花荷役分会に加入しました。

同年7月11日に親会社の指示とみられる組合つぶしである偽装

## 迫る問題と離れる人材不足の改善に向けて

第2講座は、南野車両部会長より物流の「2024年問題」の課題と、解決のための対策について講義がされた。

「2024年問題」とは、トラックドライバー不足による「モノが運べなくなる」問題のことである。具体的には、2024年で何も対策をしなかった場合、14.1%、2030年では、34%の荷物が運べなくなると言われている。しかし、南野部会長は、問題を解決するには、そうした荷主サイドの視点から捉えるだけでは不十分だとい

解雇が通知され、直ちに支部指導による恩貴島運輸闘争に突入し、同年7月26日には闘争が完全勝利で終結し、36名についても職場復帰できました。

当時の此花荷役分会の亀丸分会長は、厳しい戦いの2週間であったと書かれていました。私の大商分会も、過去に闘争があり、先輩方が築きあげた組合員に有利な労働条件を大阪支部に結集して守って行きたいと思います。

（教宣部 中山 謙一）

た。トラックドライバー不足問題の原因が、低賃金・長時間労働という労働サイドの観点からくるものでもあるからだ。しかし、道半ばだが変わりつつある所もあるのだという。



それは、「国交省のトラックGメンの創設」や「改正貨物自動車運送事業法による標準的な運賃の告示制度の導入」。また、通常国会においても、労働条件の改善に向けた法案の審議などが想定されている。いずれも、儲けようとする会社に対する監視機能や人材不足問題を解決するための動きであるが、こうした動きの源流が、国民全体に対して、物流が生活を支える社会インフラだという共通認識のもと芽生えた問題意識なら我々の運動の一定の成果だと締めくくった。

（教宣部 笹川 開登）

# 2024岩国行動スタート集会

7月12日エルおおさかにて、2024岩国行動スタート集会が開催されました。

2006年3月、米軍基地再編による米空母艦載機の厚木から岩国移転に対する住民投票は反対の民意を示しました。しかし、それを踏みにじるかのように、国は岩国市新庁舎建設費の補助金計上を見送り、基地拡張（埋め立て）のために切り崩した愛宕山跡地を、米軍家族用の住宅用地として国が買い上げようとしていました。



岩国労働者反戦交流集会は岩国基地拡張に反対し、地域住民と連帯や労働者の反戦・反基地闘争の交流集会として、2007年より開催されていて、その前段として岩国行動スタート集会が開催されています。

主催者挨拶の後、「戦争準備で強化される岩国基地と周辺住民の影響」を新田秀樹（ピースリンク広島・呉・岩国）さんから報告を受けました。岩国基地だけではなく周辺の米軍や自衛隊基地も強化されている。岩国基地もミゲルキースやアメリカなどの米軍艦が寄港し、物資の集積地となっており役割が増している。オスプレイの配備が決定したことや、海軍に続き海兵隊の戦闘機もF35B

に代わり騒音が酷くなっているなどの説明がありました。また、海上自衛隊呉基地の強化は目を見張るものがあります。2023年に日本製鉄瀬戸内製鉄所呉地区が閉鎖された跡地を、「多機能的な複合防衛拠点」として防衛省が一括購入を申し入れています。内容は、①民間誘致を含む装備品などの維持整備・製造拠点 ②ヘリポートや物資の集積場などの防災拠点と艦船配備、訓練場などの部隊の活動基盤 ③岸壁などを活用した港湾、としており、呉は海田（陸自第13旅団）に近く、佐世保（米海軍・海自）、岩国（米軍航空基地）と連携しやすい重要な場所と

# カンパ〜イ！ 共済会暑気払い

年々暑さが増すこの頃です。2024年7月12日、共済会の恒例の取り組みである「暑気払い」が例年の場所とは違い、なんばパークスのビアホール「702cafe diner」にて開催されました。今回の参加人数は、11分会、国民共済、含め合計70名に参加していただきました。



18時、和泉共済会副委員長による開会の挨拶が行われ、暑気払いが始まりました。参加者の皆さんは、美味しい料理や飲み物を楽しみながら、共に仕事や組合活動による日々の疲れを癒し、また、各分会の方々と談話し、笑顔

言っています。旧軍港市転換法では平和産業港湾都市として再生させるとなっていますが、旧軍港4港とも軍港として利用されています。呉基地の強化にも注視しなければと報告がありました。

各地からのアピールでは辺野古、横田、岩国、築城から反基地闘争の報告があり、実行委員会事務局の南守さんより2024実行委員会結成報告と行動提起があり、「11月16日〜17日に岩国で会いましょう」で集会を終わりました。

集会には執行部2名が参加しました。

（書記次長 関谷 和人）

にあふれ、親睦を深められたと思います。

19時頃、大阪シティバス分会の方たちによる報告がありました。「新規立ち上げ分会なのでわからない事も多く、たたかい方など、いろいろな事を教えていただきたい」とのことでした。

共済会として、今後も何ができるのか、われわれ一人ひとりが何ができるのか、さまざまな事を考え、意見を共有する事が、大阪支部全体の団結に繋がり、支部が盛り上げていくと感じました。

20時、國分副委員長に締めの挨拶をして、暑気払いを無事終える事ができました。

今回の「暑気払い」のように、これからも共済会委員としてより良いレクリエーションを議論し、発信して行きたいと思います。

（共済委員 金津 亮介）